

令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>○各教科等の目標をふまえ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、学習指導を行う。</p> <p>○カリキュラムマネジメントの視点をふまえ、教育課程の評価・改善に取組む。</p>	<p>①自分専用端末の効果的な活用方法やコミュニケーション支援の場面等を教員間で共有し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。</p> <p>②児童・生徒が「何のために学ぶのか」各教科等を学ぶ意義や校外学習等の目的を整理し系統的、発展的な指導に当たる。</p>	<p>①-ア 個別教育計画に基づき自分専用端末を活用し、授業における活用について「知る・使ってみる・活用する」と段階的に進める。</p> <p>①-イ 一人一授業の公開を継続し、児童・生徒が自ら手がかりに気づき主体的に学ぶ方法を共有する。</p> <p>②令和10年度の肢体不自由教育部門開設を見据えたビジョンを共有し、各学部において各教科等の目標や内容、時間配分、校外学習等の目的を整理し、教職員間で共有する。</p>	<p>①-ア 本人・保護者とともに自分専用端末を活用した支援の手立てや方法を考えることができたか。</p> <p>①-イ 校内研究の取組が、教職員のICT活用指導力の向上を図り、児童・生徒が主体的に「考え・わかり・できる」学びを引き出す授業につながったか。</p> <p>②児童・生徒の実態に基づいて教育の目標や内容を整理し学部内や各学部間で共有するとともに、保護者等の理解を得る説明を行えたか。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>○一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の充実を図る。</p> <p>○教育活動を通して、人権の視点に立った学校づくりに取組む。</p>	<p>①登校や集団への参加が難しい児童・生徒、医療的ケアが必要な児童・生徒などの教育的ニーズを踏まえ、適切な支援や関係機関との連携につなげる。</p> <p>②チームによる客観的なデータの収集やアセスメントの共有により、児童・生徒の人権を尊重し成長につなげるために必要な素養を育む。</p>	<p>①個別教育計画作成に係るチームによる話し合いのプロセスを大切にし、アセスメントから具体的で客観的な目標や支援の方法等を検討する。</p> <p>②小中高等部を設置する強みや自立活動教諭等との連携を生かし、授業研究の協議やケース会議などで中堅教員等がファシリテーションを行うなど、自由度のある話し合いを進める。</p>	<p>①学習上、生活上の支援の工夫や、興味・関心を引き出す教材研究、関係機関との連携など、チームによる話し合いの中で具体的で客観的な支援につなげることができたか。</p> <p>②教員同士が認め合い、支え合い、互いの得意をのばす中で、児童・生徒の人権を尊重し成長につなげるための話し合いを充実させることができたか。</p>
3	進路指導・支援	<p>○一人ひとりのニーズや適性に応じ、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取組む。</p> <p>○一人ひとりの自立と社会参加に向けた、主体的な取組みを支援する。</p>	<p>①職業選択支援のサービス開始（R7年10月）を見据え、進路先・見学先の充実を図る。</p> <p>②通学支援に当たっては授業との関連を図り、学びを地域での生活に生かそうとする児童・生徒の姿につなげる。</p>	<p>①学習会等で保護者や事業所の方の声を拾い上げ、本人・保護者の進路先見学が充実するよう関係機関に働きかける。</p> <p>②高等部卒業後の自立に向けて、各学部が交通ルールや公共交通機関の利用等に関する系統的な指導に当たり、校外学習や通学の場面において身につけた力の活用を図る。</p>	<p>①関係機関との連携を図り、進路先・見学先の充実を図るなど、自己選択・決定のための支援を充実させたか。</p> <p>②個別教育計画に基づいて通学に関する必要な指導と支援を検討し、保護者や移動支援等に携わる地域の方々と情報を共有しながら通学支援の取組を実施できたか。</p>
4	地域等との協働	<p>○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。</p> <p>○地域における特別支援教育のセンター的機能の取組を推進し、共生社会の実現に向け取組む。</p>	<p>①地域の方々とともに児童・生徒を育てている、という思いを持てる交流及び共同学習を実践する。</p> <p>②全教職員が、センター的機能に携わる共通認識を持ち、地域の学校の特別支援教育に係る校内支援体制の充実を図る。</p>	<p>①児童・生徒が役に立ち、必要とされたときの喜びや自信につながる姿を地域の方々と共有し、持続性のある教育活動を展開する。</p> <p>②-ア 児童・生徒の実態把握や見立てる視点を全教職員が共有し、教育相談や巡回相談の流れを把握する。</p> <p>②-イ 地域の学校の特別支援教育に関する校内支援体制構築に必要なことを、市教育委員会とともに検討する。</p>	<p>①児童・生徒を知ってもらう活動や協働する場面を整理し、地域の方々と一緒に活動を創造する取組につなげられたか。</p> <p>②-ア 実態把握や見立てる視点を共有し、児童・生徒の地域での学びに生かすことができたか。</p> <p>②-イ 地域の学校や市教育委員会の意見を反映して、校内支援体制の構築に必要なことを共有できたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○地域と連携し、安全・安心な学校づくりに取組む。</p> <p>○子どもと向き合う時間確保のために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。</p>	<p>①災害時に児童・生徒のいのちを守る、実践的な対応策を構築する。</p> <p>②さまざまな働き方に配慮した業務改善を進め、教職員の心身の健康の保持増進を図る。</p>	<p>①発災から児童・生徒を保護者に引き渡すまでの一連の流れを想定した実践的な訓練を行う中で、保護者や地域の方の意見を聞く。</p> <p>②-ア 授業時数や時間割を見直し、教育の質の向上を図るために授業打合せや教材準備等の時間を確保する。</p> <p>②-イ 会議や事務業務の効率化及びサーバー内や文書整理の方法の簡素化を図る。</p>	<p>①防災教育等の現状と課題を保護者や地域の方と共有し、地域防災に関する意見を反映しながら実践的な対応策につなげることができたか。</p> <p>②-ア 教育課程改善で生み出された時間の活用方法について、課題を整理して今後の展望を提示できたか。</p> <p>②-イ 効率化簡素化により、児童・生徒と向き合う時間や話し合う時間が増えたか。</p>